

第1回まちなかのにぎわい創出円卓会議図書館等複合施設ワーキンググループ議事録

| | | | |
|------|--|-----|---------|
| 議 題 | 第2部：図書館等複合施設整備ワーキンググループ（施設整備について） | | |
| 協議日時 | 平成30年10月23日（火）15:50～16:30 | 会 場 | 三条別院旧御堂 |
| 出席者 | <p>川口委員、長野委員、小林委員、長谷川委員、村山（宥）委員、吉田委員、水沼委員、結城委員 渡辺理事兼市民部長 生涯学習課 恋塚課長、笹倉課長補佐、今井主任、澤崎一般任用主事 地域経営課 山村課長、新田課長補佐、佐藤係長、藤田係長、三方主任 健康づくり課 村上課長兼スポーツ振興室長 商工課 澁谷主査、泉田主事 小中一貫教育推進課 土佐統括指導主事 政策推進課 竹田主任</p> | | |
| 傍聴者 | なし | | |
| 概 要 | <p>（司会：生涯学習課課長補佐）</p> <p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1） 図書館等複合施設整備について</p> <p>生涯学習課長：資料③について説明 生涯学習課補佐：第1部に引き続き、川口先生にコーディネーターをお願いしたい。 川口委員：各委員のお考えをお伺いしたい。 川口委員：音にこだわった経緯はどのようなものか。 生涯学習課補佐：家族連れが図書館で騒げず、敬遠している実態があるため、幅広く受け入れたいという思いと、鍛冶道場・鍛冶ミュージアムと連携することなどにぎやかな部分と、従来からの図書館の静けさを求める利用者層の両方の利用を考えたコンセプトになっている。 吉田委員：三条小学校エリアは、災害時の避難場所となっていた。新施設には避難場所はあるのか。地震の場合は三中となっているがそこでは遠い。地域の要望としては新施設が望ましい。 生涯学習課補佐：現状では考えていないが、今後、設計段階で防災部局と協議していく。 長野委員：図書館、鍛冶ミュージアム、理科教育センターができるということは分かるが、この三つのコンセプトが連携していく会議の場はあるのか。 市民部長：三つの要素を連携させ、より効果的にしていきたい。次回の会議に鍛冶ミュージアム、理科教育センターの概要を説明したい。併せて、この複合施設自体のコンセプトも大事になってくるため、説明</p> | | |

させていただきたい。

小林委員：1回目のワーキンググループで、皆さんはこのワーキングのメンバーで、この説明で意見を述べることを想像していたか。これでは意見は出ない。今日意見を言うことは自分には無理である。大事な施設であり、母体の意見も聞かなければ意見は出ない。

村山(宥)委員：図書館、鍛冶ミュージアム、理科教育センターということだが、全くイメージがわからない。連携の在り方のイメージがわからない。研修室は先生方の研修室か。市民が一杯利用するのにどういう連携なのかがわからない。

長谷川委員：例えば、理科教育センターで子どもたちが鉄を作る。出来た鉄で加工品が出来ないものか、それを鍛冶道場で体験する、そういう流れを想像している。まだたくさんあると思う。せっかく金属加工産地であるので、三条の子どもたちがそれくらいの知識を持っていると思うと夢が膨らむ。

川口委員：富山県にガラス美術館があり、ガラス美術館と図書館スペースがある。地場産業を大切することと学ぶ場である。この鍛冶道場との連携は、産業を子どもにも伝えられる機能は大事にしなければならない。鉄の知識は理科教育であり、このようなつながる機能があり、また、鉄や鍛冶に関する図書が集まっているとしたら、面白そうだと思う。今の公共施設は地場のものが入っているので、そういうものでイメージできる。

長野委員：ステージえんがわとの連携も書いてあるが、図書館とはどういう存在意味があるのか。ステージえんがわの取組でまちまち図書館、ひまわり号の運行など図書テーマに合ったイベントをセットしている。図書館の必要性が明確に固まっていない。

川口委員：大学の場合、24時間開放とか、リニューアルしたら利用者が増えた。居心地の良さと中の図書を一緒に考えながら、どういう形が良いのか。わざわざ行ってみたい空間があると良いと思う。

水沼委員：なぜ、まちに図書館が必要かを考えると、本を読んで知識を増やすことは単純に面白いことだと思う。図書館の場合、自分から調べるなど本との出会いというコンテンツをもたらしてくれる。本を読ませてくれることを前提に理科と鍛冶とが混ざっている中で、いろいろな機能があると良い。

川口委員：最近、図書館に関する考え方が変わってきている。昔は、コーヒーなんて、ということが変わってきている。図書館自体の考え方が進歩している。伝統を次代に伝える体験と図書が連携すれば他にはない図書館になる。

長谷川委員：多機能的な意味で、美術館的要素も市民が楽しめるものとして必要ではないか。名誉市民の関係も必要ではないか。

市民部長：現状では、美術館的要素はスペースがない。名誉市民の関係は、

この円卓会議でも議論頂くが、現図書館で考えていく方向である。
結城委員：普通過ぎる印象である。山口県のワイカムという図書館に付随している飲食の提供を求められた。実現はしなかったが、山口県から新潟県の飲食店に着目していることがすごい事。その施設はラボ的な施設で美術館、映画館、劇場を併設しており、年間 80 万人の来館がある。どういう連携があるのかを考えると、体験を基軸にすれば学びにつながり、一つの機能として図書館がある。またキレーション機能が充実しないと、紹介できる人が大事。利用者目線がかつ強力な飲食店、それに鍛冶道場、えんがわがある。デジタル、VR等の最先端の機能も面白い。

川口委員：三条しかないもの、インテリアの中に金物を入れたり、ソフトにエッジを利かせて、ここにしかないものを創る。

吉田委員：孫が本を読む機会がない。図書館に足を向けるための施設にするにはどうしたら良いか。

川口委員：キュレーターが仕掛けを作って、一方でエッジを利かせる。

小林委員：文科省の基準はしっかり満たしてほしい。

渡辺部長：しっかりやっていく。

川口委員：貴重な意見を頂いた。引き続き様々な意見を頂きたい。

3 閉会

次回開催：平成 30 年 11 月 13 日（火）15 時 30 分から

於いて中央公民館